

国際交流センター

国際交流センター

野村 正彦
(センター長, 特任教授, 名誉教授)

埼玉医学会雑誌34巻平成19および35巻20年度に続いて, 21年度の国際交流センターの事業の概要を記す.

1. 構成員

野村 正彦: 運営責任者: 相互交換留学生の総括業務, 外国との交流の総括, 教員短期留学制度実現の業務
斉藤 雅子: 大学非常勤職員
劉 文甫: 大学顧問

2. 国際交流センター委員会構成員

委員長 野村 正彦: 国際交流センター長
副委員長 松本 万夫: 国際医療センター 心臓内科: 教授
委員 菅 理江: 医学部生理学: 助教
藤田 恵子: 医学部解剖学: 准教授
茅野 秀一: 医学部病理学: 准教授
丸木 清之: 専務理事
村松 俊裕: 国際医療センター 心臓内科: 准教授
小山 勇: 国際医療センター 一般外科: 教授
辻 美隆: 保健医療学部: 准教授
荒木 信夫: 大学病院神経内科: 教授
千本松孝明: 医学部薬理学: 准教授
笹島 茂: 医学部英語: 准教授
田丸 淳一: 総合医療センター 病理学: 教授
飯田慎一郎: 国際医療センター 心臓内科: 講師
劉 文甫: 大学顧問
斉藤 雅子: 大学非常勤職員

- (1) 設置目的: 円滑に国際交流の機能を発揮する為に当委員会を設置した. 交換留学制度にあるように, 埼玉医大生および海外の提携10大学からの留学生が相互に留学をして現地大学病院を中心にした研修を4週間施行する. これらに關与する種々の決定事項は, すべてこの委員会に議題として提案して討論の上決定して実行する.
- (2) 活動目標: 交換留学制度を円滑に行う為に海外10大学との相互大学間の契約に従って, 毎年この行事を施行する事である. 加えて, 教員短期留学制度として教員の留学を実現する. 有給の形で留学が実現し, 年間5名を3ヶ月間, 希望の外国の大学・研究所等に派遣する.
- (3) 活動: 毎月1回開催を原則にしている. 従って, 年12回の開催とこれ以外の, 緊急会議が必要なときはこれを開催する.
- 第1回 国際交流センター委員会, 平成21年4月15日開催
於: 医学部7号館1階会議室, 18時から
- 第2回 国際交流センター委員会, 5月20日

- 第 3回 国際交流センター委員会, 6月10日
- 第 4回 国際交流センター委員会, 7月15日
- 第 5回 国際交流センター委員会, 8月5日
- 第 6回 国際交流センター委員会, 9月2日
- 第 7回 国際交流センター委員会, 10月7日
- 第 8回 国際交流センター委員会, 11月4日
- 第 9回 国際交流センター委員会, 12月2日
- 第10回 国際交流センター委員会, 平成22年1月13日
- 第11回 国際交流センター委員会, 2月10日
- 第12回 国際交流センター委員会, 3月10日

(4) 小委員会：その他，教員の留学体験者と，海外から医師を含む研究者を受入れる為に，基本学科の体制を調査する為に以下の「小委員会」を発足した。

1) 『受入準備委員会』責任者：茅野委員

全学教員の留学体験者および今後の留学希望者，外国からの受入れの可能性と実態をアンケート調査する為に，内容と各項目を検討して，調査書を作成した。平成20年12月に全学の基本学科を対象に，基本学科運営責任者宛にアンケートを配布して，回収した。これを受けて，集計を図式化して，当委員会で『海外からの受入れと，海外への留学の可能性』を検討議題とした。

2) 『派遣準備委員会』責任者：松本副委員長

「教員短期留学制度」において教員を海外に派遣する為の規則作りを行った。また，同制度へ応募のあった教員を審査するための選考委員会を組織した。

3) 『ホームページ委員会』責任者：管委員

国際交流センター独自のホームページを作成する準備を重ね，これを開設した。

3. 学生相互交換留学制度 Student Exchange Program

1995年に開始した相互交換留学制度は，15年目を迎えた今年で既に275名にもなる留学体験者を数える。海外の10校の相互交換留学相手校からも同様に埼玉医科大学へ研修に来ており，世に誇れる貴重な制度となっている。

(1) 平成21年2月13日：学生の応募者の中から，学生部委員の面接と英語の面接を行い，留学予定者22名を決定した。

2009(平成21)年度交換留学生		
Linköping University	中山 由梨	古谷 真由美
Charité-University Medicine Berlin	岡部 杏慈	佐野 博康
	坂田 真由子	杉山 亜斗
The University of Liverpool	村田 典子	安田 邦彦
The University of Manitoba	岡田 良美	武田 桃子
University of Bochum	金澤 貴仁	斉藤 陽一
Albert Einstein College of Medicine	伊田 夏子	盛田 久美
The Johns Hopkins University	小山 杏奈	加藤 高英
Chang Gung University	大里 真之輔	柴田 和恵
Semmelweis University	下河辺 嗣人	林 亜里紗
University of Pecs	丹下 徹彦	中村 智奈

(2) 3月12日：Manitoba 大学から2名の交換留学生が埼玉医大で研修のために来日，丸木記念館に4月4日まで滞在した。

- (3) 4月2日：学長が2名と面談。受入れ診療科の教授が同席し、留学生の対応や学業の評価を話し合い、相互の理解を行った。
- (4) 3月21日～23日：ウェルサンピア埼玉越生において『越生セミナー（英語力強化合宿）』を開催、3日間の英語研修を行った。参加者は留学予定者22名とManitoba大学からの留学生2名。
- (5) 4月6日：Albert Einstein U.の交換留学生2名が研修のために来日、丸木記念館に4月24日まで滞在した。
- (6) 4月23日：Albert Einstein U.の留学生が学長と面談。受入れ診療科の教授が同席した。
- (7) 7月5日：Linköping / Liverpool / Chang Gung / Semmelweis / Pecs 大学から各2名の交換留学生10名が埼玉医大へ研修のために来日、「研修医宿泊施設ラベンダー」に4週間滞在し、各自が希望した大学病院および2つの医療センター診療科において研修を行った。新型インフルエンザの流行が懸念されたため、留学生の熱発の観察を行い、到着後3日間は病院での研修を保留とした。この間は川越市内や、都内での観光を行った。無事を確認した後、8日から研修を開始した。
- (8) 7月8日：丸木理事長主催、交換留学生歓送迎会を丸木記念館で開催。関係各位と留学体験先輩も参加した。18：30開始、松本教授司会。
- (9) 7月11日～13日：河口湖畔サニーデ・リゾートにおいて『河口湖セミナー（直前準備合宿）』を行った。留学予定者22名と外国人交換留学生10名が参加。田村謙太郎医師、千本松准教授とメイン州の大学生である令嬢、英語のBarbara先生が参加。
- (10) 8月2日：22名の5年生留学生が成田から海外10大学の留学相手校へ出発し、交換留学相手校の大学病院で4週間の研修が行われた。上記5大学から来ていた10名の留学生も、4週間の研修を終えて同時に帰国した。
- (11) 8月30日：22名の留学生が全員無事に帰国した。
- (12) 8月24日：Charite Berlin 大学より交換留学生2名が埼玉医大へ研修のために来日、9月22日まで滞在した。
- (13) 8月30日：Bochum 大学より交換留学生2名が埼玉医大へ研修のために来日、10月5日まで滞在した。
- (14) 9月10日：BerlinとBochumからの留学生4名が学長と面談。
- (15) 9月14日：Bochum 大学のProf. Tenderichが来日。客員教授として埼玉医大、国際医療センターで特別講義を行った。
- (16) 10月5日：野村センター長が、3年生医学概論「良医への道」の4時限目講義を行った。『先輩からのメッセージ』を主題に5年生の交換留学体験者6名が交換留学先の大学を紹介し体験談を述べた。
- (17) 10月9日：第4講堂において、16時から交換留学生全員が各大学の研修体験の発表を英語で行う帰国報告会が行われた。各自に学長名の認定書を授与した。
- (18) 2010年1月：16年目を迎える平成22年度の交換留学生公募を行なった。
- (19) 2月23日：27名の応募者を学生部長主催の選考委員会で選考を行なった。選考の結果は26日の教員代表者会議において発表、承認された。

2010(平成22)年度交換留学生		
Linköping University	神田 さやか	望月 加奈
Charité-University Medicine Berlin	印藤 佳織	田中 志昂
	松島 桃子	呉 侑樹
The University of Liverpool	花城 里依	松本 賛良
The University of Manitoba	高山 智裕	南川 優輝
University of Bochum	金子 友美	細田 隆介
Albert Einstein College of Medicine	飛田和 えりか	山本 珠江
The Johns Hopkins University	榎本 有希	大島 由佳
Chang Gung University	植原 大介	肥塚 幸太郎
Semmelweis University	四宮 俊	望月 文博
University of Pecs	梶原 大輔	出口 雄樹

4. 低学年向け春季語学研修 English for Health Science Purposes

3年目を迎える低学年を対象にした『春季語学研修』の留学は、医学部および保健医療学部生を対象にした全学的な事業である。3月の春休みを使って、オーストラリア、メルボルンにあるMonash大学で行った。3月4日から20日までの17日間、医学部のあるキャンパスにおいて現地の医療現場で英語の研修を行った。参加者は医学部10名、保健医療学部9名。笹島准教授が一部現地で参加した。

5. 教員短期留学制度

2009年2月13日の教員代表者会議において正式に「教員短期留学制度」が発足する報告をした。これにより平成21年度の公募を2月16日(月)から行い、4月から制度として実施する運びとなった。

留学希望者の公募は全教員宛に電子メールにて配信され、国際交流センターのホームページにおいても応募要項を公開記事とした。この制度の『規則・細則・募集方法』は学長の承認を得た。種々の決まりとしては、留学中の身分(職位/資格)は現職のままである事、留学期間は3ヶ月間である事、出張扱いとし給与は有給である事などが記された。

(1) 募集要項および提出書類

国際交流センターのHPに掲載しており、ここからダウンロードが可能である。基本学科の運営責任者の許可のもと、申請書類を国際交流センターへ提出する。当センター内に設置される選考委員会が、申請者の中から選考し、留学候補者として学長に報告する。

(2) 留学先

- 1) 留学先は、学生の相互交換留学を提携している相手校を選ぶ事ができる。Chang Gung / Pecs / Semmelweis 各大学は、相互の提携を行っているので、宿泊施設等用意があり、これらの利用が可能である。
- 2) 上記に限定しない。即ち、世界のいずれの大学・研究施設を選ぶ事ができる。
- 3) 2009(平成21)年度留学者と留学先は以下のとおりである。

1.	田丸文信, 生理学, 助教 SUNY Upstate Medical University
2.	小山 薫, 総合医療センター麻酔科, 准教授 Emory University School of Medicine
3.	竹内英樹, 国際医療センター乳腺腫瘍科, 助教 Simmelweis University
4.	上西正洋, 国際医療センター心臓内科, 助教 Chang Gung Memorial Hospital
5.	石橋敬一郎, 総合医療センター消化管外科・一般外科, 講師 University of Pecs Medical School

(平成21年12月31日現在, 1, 2, 4.の3名が留学を終了した。)

- 4) 平成22年度『教員短期留学応募者』の公募を行っている。2年目を迎え、多数の応募を期待する。

6. 第22次埼玉医大訪中団

8月30日から9月5日。山西省人民病院にて3教授の特別講演。山西省衛生庁公式訪問を行なった。

団 長 金澤 実：大学病院 呼吸内科教授
副団長 川崎 潤：総合医療センター 麻酔科教授
佐伯俊昭：国際医療センター 乳腺腫瘍科教授
田島賢司：経理部長

劉 文甫：国際交流センター顧問

川崎佳子：川崎教授夫人

7. 中国山西省から研修医が3名来て研修を行なっている.

(1) 氏名および研修先

1) 張 麗：眼科

2) 張 芬亜：国際医療センター 乳腺腫瘍科

3) 呉 萃：口腔外科

(2) 期間：平成21年11月13日から平成22年5月10日迄の6ヶ月